

医学教育分野別評価
久留米大学医学部医学科
年次報告書
2023 年度



令和5年8月
久留米大学

医学教育分野別評価 久留米大学医学部医学科 年次報告書 2023 年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 35

はじめに

受審後の3年目(2022年4月1日～2023年3月31日)は、前年度の年次報告書を委員会や部会、講座や診療科、学生や教員間で共有し、改善すべき課題に関する意識づけと改善計画の取組みを図ったが、3年目になるCOVID-19流行(夏の第7波と冬の第8波)で感染対策と学修支援に重点が置かれ、改善活動は満足に行えなかった。4年ぶりに医学教育ワークショップをハイブリッド形式(対面とオンライン)で開催し、診療参加型臨床実習について議論した。なお、久留米大学中期計画は「VISION 2022-2026」で共有され、旭町キャンパス(医学部地区)の戦略目標「C-b 教育の質の向上」の重要業績評価指標(KPI)には「医学教育分野別評価の改善事項数」が明記されている。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022年4月1日～2023年3月31日を対象としている。また、重要な改訂があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1の改善項目として、「学修成果をコンピテンシーとして表現する」、「使命に国際的健康と医療の観点を明確に記載する」、「使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性について検討する」などが指摘された。これを受け、本学の「建学の精神」が制定されたが、使命の内容の変更、学修成果の表現、使命と学修成果の整合性の検討については、引き続き、改善活動を続ける。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①「国手の理想は常に仁なり」という医学部医学科の理念の下に、地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を目標として、大学の使命に社会的責任を包含している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①使命に国際的健康と医療の観点を明確に含むことが期待される。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命は「時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進できる人材を育成する」であり、年度初めの教授会議で理念と使命(教育目的)が審議され、変更なく承認された。今後は、使命の後半部について、「高水準の医療や最先端の研究を推進できる国際的な人材を育成する」に変更するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録（令和4年4月13日）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①学修成果は達成を示す形のコンピテンシーとして表現すべきである。
- ②使命・ディプロマポリシーと学修成果との整合性について検討すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コンピテンシーの表現については、とくに改善活動を行えていない。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会や医学教育ワークショップにおいて、医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度版)を参考にした上で、使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性を改めて議論し、学修成果の表現が達成を示す形のコンピテンシーとなるように、改善活動を続ける。

学修成果の達成に関連して、今年度は医学教育ワークショップを開催した。クリニカル・クラークシップをテーマに議論し(参加者76人、教授29人/准教授17人/講師9人/助教14人/臨床研究員1人/学生6人)、学修成果の評価の在り方や学生側・教員側の課題を抽出した。今後もこれらの抽出課題を含め、学修成果の表現の達成を示す形のコンピテンシーへの変更、使命・ディプロマポリシーと学修成果との整合性について具体的な方策を教務委員会とカリキュラム委員会を中心に検討し、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録(令和4年11月1日)
医学教育ニュース67号(令和4年10月28日)
第26回医学教育ワークショップ記録

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①久留米大学病院では独自の臨床研修終了時の学修成果を定め、卒業時の学修成果との整合性をとっている。

改善のための示唆

- ①医学研究に関して学修成果をコンピテンシーとして明示することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コンピテンシー記載の変更については、継続して議論を行っている段階であり、具体的な改善活動や成果にはつながっていない。学生が医学研究に直接触れる機会として研究室配属(RMCP)があるが、コロナ禍の影響で成果の発表形式に制限があり、学修成果につながる対面での議論を十分に実施できなかった。今後は、これらの評価方法を含めて、教務委員会を中心に議論を継続し、結果をコンピテンシーとして明示していく。

改善状況を示す根拠資料

なし

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①使命と学修成果の策定に関し、教員・職員・学生が参加する医学教育ワークショップを定期的
に開催し、議論を重ねたことは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

2020年度と2021年度はコロナ禍で実施できなかった医学教育ワークショップ(隔年開催)をハイブリッド形式で開催し、76人の教員・職員・学生が診療参加型臨床実習について議論した。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果について、教育関連病院長や医療関係行政組織担当者など、広い範囲の教育関係者から意見を聴取している。

改善のための示唆

②今後、使命と目標とする学修成果を策定する際には、他の医療職や患者の代表者などからの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

4年ぶりにハイブリッド形式(対面とオンライン)で開催した医学教育ワークショップでは、「クリニカル・クラークシップ」をテーマに学生を含む76人が議論したが、コロナ禍もあり、幅広い医療専門職(看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師など)や患者の代表者から意見を聴取する機会は設けられなかった。今後は、「使命と学修成果」をテーマに挙げ、主要な教育構成者だけでなく、医療専門職(看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師など)や患者の代表者から意見を聴取するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

医学教育ニュース 67号(令和4年10月28日)

第26回医学教育ワークショップ記録

2. 教育プログラム

領域2の改善項目として、「行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理して科目責任者を明確にする」、「主要な診療科での臨床実習期間を十分に確保して診療参加型臨床実習を充実させる」、「科目間の水平的統合と垂直的統合を推進する」などが指摘された。これを受け、行動科学は、第2学年の医療概説、第3学年の医療倫理学が別の科目として独立し、第4学年の行動科学は行動経済学や健康行動理論を中心とした科目に再編された。主要な診療科での臨床実習期間の確保、診療参加型臨床実習の充実、科目間の水平的統合と垂直的統合については、引き続き、改善活動を続ける。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①PBL テュートリアルを独自に発展させた「協同学習」として、チーム基盤学習(TBL)・逆転授

業・話し合い学習法(LTD)をさまざまな科目で取り入れていることは評価できる。

改善のための助言

①統合型から改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、卒業時コンピテンスと科目の関連性を明示すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学体系別・講座部門別カリキュラムにおける科目別の到達目標について、卒業時コンピテンスとして不足している部分を洗い出す作業を継続して行っている。新々カリキュラム(2018年度入学者に適用)がほぼ全学年で運用される状況となり、より客観的に比較・検討できるものと思われ、今後は、教務委員会やカリキュラム委員会が学修成果(卒業時コンピテンス)と科目や教育内容を関連づけ、カリキュラムやシラバスで明示するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①臨床実習においてEBMの教育をさらに充実すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習におけるEBM教育の充実については、学生と指導医が病院でEBMを実践できるように、臨床医学情報ツールとしての『UpToDate』を導入し、学生の利用状況は年間10,819件であった。今後は、臨床実習を担当する教員の意識づけを強化し、臨床実習における学生の『UpToDate』利用をさらに促進する計画である。

改善状況を示す根拠資料

UpToDate ユーザー別利用統計 2022年度(令和4年4月28日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.4 行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①「行動科学」の教育プログラムを明確に定義し、社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理・分類し、それぞれの科目責任者を明確にしてコーディネートすべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

行動科学部会が改善活動を行っている。2022年度は、「行動科学」の教育プログラムの整理・分類を前年度からさらに進めた。まず、従来の行動科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳから始まる科目名を社会医学・行動科学系という枠組みの中で取りまとめた上で、科目名を具体的な内容を表すものに変更した。これにより、第1学年では「人間関係論」「地域医療学」「医学心理学」「医学統計学(基礎)」「医学統計学(応用)」、第2学年では「医療概説」「法医学」、第3学年では「医療倫理学」「医療安全」、第4学年では「社会と医学・医療(環境医学)」「社会と医学・医療(公衆衛生学)」「行動科学」を社会医学・行動科学系の科目として整理・分類した。

2023年度は、これまでの改善活動を継続する。現在、第4学年の「社会と医学・医療(公衆衛生学)」と「行動科学」では様々な理由により、社会保障制度に関する内容を両方の科目で按分して取り扱っている。この2つの科目で取り扱っている内容の整理・分類をさらに進める。具体的には、「社会と医学・医療(公衆衛生学)」は社会保障制度論を中心とした公衆衛生に関する内容、「行動科学」では行動経済学や健康行動理論を中心とした狭義の行動科学に関連する内容、「疫学」では疫学の基礎理論や感度特異度分析に関する内容に焦点を置いた3つの科目に再編する方針としている。

改善状況を示す根拠資料

行動科学部会議事摘録(令和4年7月19日)

行動科学部会議事摘録(令和5年1月30日)

教務委員会議事摘録(令和4年9月12日)

教務委員会議事摘録(令和5年2月6日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①主要な診療科を中心に臨床実習期間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ②学生が健康増進と予防医学の体験を確実に実践できるカリキュラムを定めるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

主要な診療科の臨床実習期間の確保については、第6学年のクリニカル・クラークシップの選択必修科目において、連続する長期間の臨床実習機会を確保している(4週間×2クール+3週間×2クール)。診療参加型臨床実習の充実については、クリニカル・クラークシップ部会の下部組織として新設した「クリニカル・クラークシップ実務者会議」(教育主任が主体)が活動しており、協同学習方式の導入や総合診療科の取組み紹介を通じて学生の学習促進を図っている。また、ベストクリニカルティーチャー賞・診療科賞を設けて教員の教育意欲の促進を図ることにした。学生のカルテ記載については、学生のための「電子カルテ作成システム」を導入しているが、2023年4月から診療で使用している電子カルテに学生が記載する新システムに移行する計画である。今後は、第4学年～第5学年の臨床実習において内科系や外科系の診療科で長期間(4～8週)の臨床実習が行えるプログラムを新たに検討するとともに、クリニカル・クラークシップ部会、とくにクリニカル・クラークシップ実務者会議と臨床実習協議会(複数の学生が参加)が、診療参加型臨床実習を充実させるための方略や具体的な対策を議論し、診療科に紹介して普及させる計画である。

臨床実習における健康増進と予防医学の体験については、コロナ禍での学外実習制限の影響もあり、具体的な改善活動には至らなかった。基礎系科目の再編成が終了し、臨床系プログラム構成の自由度が高まったので、今後は、カリキュラム委員会やクリクラ部会(教務委員会)が健康増進と予防医学の体験を実践できる機会を、臨床講義あるいは臨床実習に定めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和4年8月19日)
- クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和5年1月30日)
- クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録(令和4年6月8日)
- クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録(令和5年1月24日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①2015年から導入した新カリキュラムにおいて、低学年から学外の施設で早期体験学習を実施している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.6 教育プログラムの構造・構成と教育期間 基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、科目間の水平的統合を推進することが望まれる。
- ②改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

科目間の水平的統合と垂直的統合については、専門科目を基礎医学系、社会行動医学系、臨床内科学系、臨床外科学系、統合医療系、臨床実習系、クリニカル・クラークシップに大別し、関連の深い科目間における水平的統合の推進を進めた。今後は、基礎医学系・社会行動医学系と臨床医学の垂直的統合を推進するために、カリキュラム委員会や教務委員会で議論するとともに、教員が科目間の水平的統合と垂直的統合を意識して講義や実習を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和4年11月1日）

2.7 教育プログラムの管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会の活動をより実質化し、カリキュラムの改善を計画・実施することが望まれる。
- ②カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラム委員会が、科目再編成を推進している。今後は、カリキュラム委員会の活動をこれまで以上に具体化・実質化し、令和4年版医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた形で本学のカリキュラムの改善を計画・実施する。また、カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育関係者(他の医療職・患者・地域医療の代表者)を含めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録(令和4年11月1日)

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を設置して地域の教育関連施設と連携を取り、卒後の研修や臨床の実践につながる教育を行っている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会を通じ、地域や社会の意見を取り入れて教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育関連病院長との懇談会を通じて地域の医療機関の意見を取り入れる活動は以前から行われているが、コロナ禍の影響もあって、それ以上の改善活動は実行できていない。今後は、教育関連病院長との懇談会以外にも地域や社会の意見を取り入れる機会をカリキュラム委員会の活動に取り入れる方策を、現在進行中のカリキュラム改革や教育プログラムの改良に反映させるべく検討を行うなどの改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

教育関連病院長との懇談会（令和5年3月30日）

3. 学生の評価

領域3の改善項目として、「学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築する」、「態度を確実に評価し、態度の評価が記録される仕組みを充実させる」、「臨床実習で様々な評価方法と形式を有用性に合わせて活用する」、「各科試験・総合試験・臨床実習評価について、評価方法の信頼性と妥当性を検証する」、「知識・技能・態度における形成的評価を充実させる」、「学生の評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックを全学生に公正に行う」などが指摘された。これを受け、臨床実習における技能と態度の形成的評価の充実が周知され、科目責任者に総括的評価の重要性が認識されているが、学年縦断的な評価体制の構築、態度の評価と記録の仕組みの充実、評価方法の信頼性と妥当性の検証、評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックの実施については、引き続き、改善活動が続ける。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①独自の試験問題プールシステムの利用により総合試験の充実を図っていることは評価できる。

改善のための助言

- ①第1学年の協同学習では、相互評価や形成的評価を含む多角的な評価方法を導入しているが、学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築すべきである。
- ②態度を確実に評価し、評価が記録される仕組みをさらに充実させるべきである。
- ③臨床実習において、Mini-CEX・多面的評価(360度評価)・電子ポートフォリオ評価とクリニカルスキル・トレーニングセンターを活用した評価など、様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ④卒業試験以外の評価においても外部の専門家による吟味を一層行うべきである。
- ⑤評価結果に対して正式な疑義申し立て制度を導入すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

態度の確実な評価については、剽窃・カンニング・体温計測未実施・レポート提出遅れなど、根拠を提示できるものを態度評価の対象として進級判定に加えている。また、講義出席システムで指定された登録方法に従わない学生について、態度評価として厳正に受験資格の判断や進級判定を行う材料とした。なお、レポートなどの文書では、生成AIを利用した自動作成の問題があり、態度評価としての対応や方針についても検討が必要である。卒業試験については、外部の専門家による評価を受け、結果を教員と学生にフィードバックしているが、総合試験や各科試験の評価については、外部の専門家による吟味を行っていない。今後は、改訂コアカリの運用を視野に入れながら、相互評価や形成的評価を含む学年縦断的な評価体制の構築、外部専門家による評価方法の吟味、評価結果に対する正式な疑義申し立て制度の導入について、教務委員会・医学教育研究センター・教務課を中心に議論を進める。

臨床実習の多面的評価については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、mini-CEX や 360 度評価の活用が説明された。臨床実習における多様な評価方法の有意義な活用については、クリニカル・クラークシップ部会で審議すべきであるが、コロナ禍で臨床実習の制限や中断があり、実施には至っていない。外部専門家による試験や評価の吟味と評価結果に対する疑義申し立て制度の導入も、未着手である。今後は、学年縦断的な評価体制と態度評価の仕組みとして、医学科 IR 委員会の設置と学生カルテの導入を具体化するように計画を進め、臨床実習における多角的な評価の構築、総合試験の外部評価システムの確立、評価結果に対する疑義申し立て制度の導入などを進めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録（令和 4 年 12 月 14 日）
教務委員会議事摘録（令和 4 年 6 月 6 日）
教務委員会議事摘録（令和 4 年 12 月 12 日）
教育主任会議資料（令和 4 年 4 月 19 日）
教務委員会議事摘録（令和 5 年 3 月 6 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①各科試験・総合試験・臨床実習評価などについて、評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センターでは、毎年、医師国家試験の成績(点数)と卒業試験・総合試験・共用試験 CBT の成績(点数)の関連を検証し、強い相関があることを確認している(一部は部外秘)。今後は、総合試験(例えば、第 2 学年の基礎医学 CBT や第 3 学年の臨床医学 CBT)と各科試験の相関や各科試験の評価方法の妥当性と信頼性を検証するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録（令和 4 年 6 月 6 日）

3.2 評価と学修の関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①目標とする学修成果の達成を保証する評価であることを検証すべきである。
②知識・技能・態度における形成的評価をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

試験が学修成果の達成を保証する評価であるかどうかについて、医学教育研究センターが適宜教務課のデータを使って検証し、教務委員会に提示している。例えば、第 116 回医師国家試

験成績について、医学教育研究センターが受験者の領域別点数(四分位で全国平均と比較)を分析してグラフ化して結果を説明した。また、総合試験と各科試験については、第2学年(基礎医学 CBT)と第3学年(臨床医学 CBT)において強い相関があり、総合試験で総括的評価(進級判定)を行えば十分であり、各科試験で形成的評価を行って学生にフィードバックするのが有用であることを提言した。今後は、総合試験や各科試験、臨床実習の各科評価や態度評価について、医学教育研究センターが教務課と連携して学生の成績を分析し、試験や評価が学修成果の達成を保証する評価であるかどうかを教育評価委員会が検証し、学生の評価が充実したものになるように、改善活動を続ける。

形成的評価の充実については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、態度評価や形成的評価の充実が説明され、一部で具体的な取り組みが始められたが、多くの教員には方法と意義の理解が行き届いておらず、教育FDを通じて形成的評価の周知を図っている。今後は、入学時から卒業時までの縦断的でシームレスな評価の中に、形成的評価をどのような形で組み込んでいくか、教務委員会と医学教育研究センターを中心に議論を行い、教員が日常的な教育活動の中で知識・技能・態度の形成的評価を充実させるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録(令和4年5月9日)

教務委員会議事摘録(令和4年6月6日)

医学教育研究センター マンスリーレポート No.87(令和4年6月)

教育主任会議資料(令和4年4月19日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに適切な試験の回数と方法を検討することが望まれる。

②全学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的・建設的・公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

卒業試験について第6学年の学生と議論し、国家試験対策の学習効果を高めるために個人の勉強時間を確保したいという学生の要望に対応し、本試験を3回(A/B/C)から2回(A/B)に減らした。また、卒業試験A終了後に実施している卒前医学教育総括講義(9~10月の午前20コマ)を「卒前医学総合講義」に変更し、講義内容を卒業試験Aの詳細な解説として、学生へのフィードバックや形成的評価を含むものにした。さらに、これまで国家試験成績が全国平均を下回ることが多かった公衆衛生領域の集中講義と小テストの充実化を図り、卒業前の具体的で建設的なフィードバックとした。このような学生との議論を通じて行った卒業試験の変更と総合講義の改善が、結果として医師国家試験成績の向上に結びついたと評価される。今後は、総合試験や各科試験の適切な方法を検討し、結果に基づいたフィードバックの具体的な方法(例えば、第3学年と第4学年の短期集中型講義後の試験後に解説講義を実施)について、教務委員会・カリキュラム委員会・医学教育研究センターで議論し、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録(令和4年5月9日)

教務委員会議事摘録(令和4年6月6日)

4. 学生

領域4の改善項目として、「使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画する」などが指摘された。これを受け、学生は学修対策部会やPCCE部会に積極的に参画しているが、使命の策定や教育プログラムの管理を審議する委員会への参画については、引き続き、改善活動を続ける。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①多様な入学者選抜方法を採用している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域や社会からの要請に応じて入学者数を定め、それぞれの入学枠の募集人員を調整している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①入学時から卒業時まで継続して個々の学生をきめ細かくサポートする学内コンサルタント制度を導入し、機能していることは高く評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生は参加していない。ただし、第4学年のPCCE部会(臨床実習前演習、教務委員会の下部組織)では、プログラムの企画と実施に学生が継続的に参加している。また、学修対策部会(教務委員会下部組織)では、第4学年～第6学年の学生が積極的に参加して率直な意見や要望を述べており、成績不振者の支援、国家試験に対する学修計画、勉強スペースの確保や学習環境の整備、学年全体で円滑なコミュニケーションを図る方法を議論した。8月20日に開催した医学教育ワークショップでは、コロナ禍(第7波)で行動制限や感染対策で限定された中、6名の学生が議論に参加し、クリニカル・クラークシップにおける学生と教員のモチベーションを向上させる具体的な方策とプログラム管理について建設的な意見交換が行われた。今後は、教育プログラムの策定と管理を定期的に審議するカリキュラム委員会と教務委員会に学生が参加し、学生と教員が双方向性に議論する機会を設け、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

学修対策部会議事摘録(令和4年4月19日)
医学教育ニュース67号(令和4年10月28日)
第26回医学教育ワークショップ記録

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 教員

領域5の改善項目として、「教員活動評価システムを活用して教員の活動や能力開発にフィードバックする方策を確立する」、「講師や助教が医学教育ワークショップに積極的に参加してカリキュラ

ム全体を理解する」などが指摘された。これを受け、コロナ禍で開催できなかった医学教育ワークショップを4年ぶりに開催して若い教員の能力開発に活用したが、教員の教育活動に関する方針の策定と教員の活動を把握・評価。活用する方策の確立については、引き続き、改善活動を続ける。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①教員の募集選抜に関する方針として、「求める教員像と教員組織の編制方針」が策定されていることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を開設し、地域医療教育に関する教員を選考していることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育ワークショップを定期的で開催し、種々の教育上の課題について議論している。

改善のための助言

- ①教員の活動を評価するシステムを活用し、エフォート率などを把握・評価してフィードバックする方策を確立すべきである。
- ②個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。
- ③講師や助教等の若い教員のFDへの参加率を向上させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教員の活動と能力開発に関する方針は明文化されておらず、「教員の教育活動と能力開発に関

する方針」と「教育スタッフ研修会の指針」について、教育評価委員会(三部門会議)から試案が前年度に提出された。今後は、次年度に再提出が計画されている試案の内容を吟味し、最終案の策定と教授会の承認を目指すとともに、実際的な運用に向けて教育FDを担当する組織体制を見直し、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策を確立するとともに、定期的に電子FDを行い、若い教員が継続的に研修を受けて自らの能力開発に努めるように、改善活動を続ける。

コロナ禍(第7波)の行動制限と感染対策の中、4年ぶりの医学教育ワークショップがハイブリッド形式(対面とオンライン)で開催され、テーマは「待ったなし!! クリニカル・クラークシップ改革」、参加者は76人(教授29人/准教授17人/講師9人/助教14人/臨床研究員1人/学生6人)であり、第1部「共通認識を得る」は、事前アンケート結果報告、基調講演「学習者評価」、臨床実習の取組み紹介、第2部「グループ作業」は、「学生としてどう臨むべきか」「教員のやる気を引き出す方法」「基礎医学の視点から」「実効性のある方法の提案：オンライン実習の活用法、協同学習を応用した実習法、新しい手法の可能性」「クリクラ評価の方法」の7グループ(A/B/C/D1/D2/D3/E)に分かれて提言にまとめ、ランチョンセミナー「共育：コミュニケーション能力と信頼関係を育てる」のあと、第3部は全体討論で意見交換を行った。恒例の教育講演会「第116回 医師国家試験結果の分析」(講師塩澤昌英氏)は、医学部長名で教務課が全教員に通知し、12人が教室で拝聴、56人が同時配信を視聴し、教育FDとして後日配信した録画を362人が視聴した。今後は、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策を確立するとともに、定期的に電子FDを行い、若い教員が継続的に研修を受け自らの能力開発に努めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教員の教育活動と能力開発の方針(案)について(令和3年12月13日)
医学教育研究センター マンスリーレポート No. 85(令和4年4月)
医学教育研究センター マンスリーレポート No. 89(令和4年8月)
医学教育ニュース 67号(令和4年10月28日)
第26回医学教育ワークショップ記録

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 教育資源

領域6の改善項目として、「診療参加型臨床実習の実質化に向けて学内外の指導者の能力向上を図る」、「学生の電子カルテへのアクセスを確保する」などが指摘された。これを受け、クリニカル・クラークシップ部会が臨床実習の改善に取り組み、実務者会議と学生が参加する協議会を発足させ、診療参加型臨床実習の充実について、現場の教員と学生が議論を重ねているが、臨床実習の指導者

の能力向上や学生の電子カルテのアクセス確保については、引き続き、改善活動を続ける。

6.1 施設と設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①旧病棟と旧外来棟を有効に活用し、学生の自習室と共同学習室を確保している。
- ②実践的な臨床技能の教育・訓練を実施するためのクリニカルスキル・トレーニングセンターを設置している。
- ③学生の課外活動のための部室棟や学生の休憩用スペースが整備されている。

改善のための助言

- ①水害などの災害に対する避難訓練、確実な安否確認方法の整備、災害後の復旧・事業継続計画を検討し、実施すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

施設と設備については、医学部総合グラウンド整備、総合グラウンド北部敷地のゴルフ用ゲージ設置、医学部B棟・C棟のエアコン入替、医学部B棟の扉窓交換、医学部C棟の遮光カーテン設置を実施し、学生の学習施設や部活動環境の改善を行なった。災害時の安全確保の強化については、学生の安否確認方法の見直しと災害時避難訓練の策定を久留米大学将来構想答申書に行動計画(5年間)として明記し、具体的な活動案を検討・提案するために、学生委員会で医学部災害WG設置について議論した。今後は、安否確認方法の整備、災害避難訓練の実施、災害後の復旧・事業継続計画(BCP)の作成を実行するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

将来構想 VISION 2022-2026
学生委員会議事摘録(令和4年10月5日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生からの要望を反映させ、教育の施設設備を整備している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生が臨床実習で適切な臨床経験を積めるように患者数と疾患分類を確保している。

改善のための助言

①診療参加型臨床実習の実質化に向けて、学内外の指導者に対しても指導能力のさらなる向上を図るべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習前演習(PCCE)では、問題志向型症例検討(POCD)を全診療科が参加する協同学習方式に変更し、臨床実習の指導医が協同学習の手法を学ぶ事前説明会をアクティブラーニング委員会の基礎系教員が実施した。今後は、診療参加型臨床実習の実質化に向けて、クリニカル・クラークシップ部会が臨床実習指導者研修会(Web-FD)を開催し、ベストティーチャー賞やベスト診療科賞を新設し、指導能力向上と動機づけを促進し、学内外の臨床医の指導能力のさらなる向上を図るように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和5年1月30日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①導入した電子シラバスを初めとして、情報通信技術をさらに有効かつ倫理的に活用すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

2020年度初めに立ち上げた新型コロナ対策教育支援室(チームK)がLMS(学習管理システム)を使用して動画配信や遠隔授業を継続している。大学病院の臨床実習での電子カルテの閲覧と記載については、2022年度に大きな変更はなく、学生は電子カルテ閲覧が許可されているものの記載の権限はなく、別の電子カルテ作成システムを使用している。2023年度は4月から電子カルテに学生(Student Doctor)の権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載でき、指導医が随時コメントを記載して学生が有効に活用できるようになる。

教育用IRとして学生・教員・カリキュラムに関する内容について、教務委員会内のIT部会で検討を進めるよう提案された。入学試験・共用試験CBT・国家試験の成績の繋がりが確認でき

るようにデータを集約・解析し、教員と学生にフィードバックする仕組みの構築を目指し、学生の IR、特に成績に関する内容を最優先に、データ集約システムの導入を進めることになった。これらを実現するために、数社の既存の教育用 IR システムを比較・検討し、2021 年に富士通(データベース・IR 分析システム)の導入を決定したものの、コロナ禍における世界的な電子部品の調達の遅れにより、導入が大幅に遅れた。2022 年 12 月にシステムが導入され、教務システムのデータのうち成績関連情報を優先して入力をはじめたところである。今後の運用などについては、教務委員会の IT 部会や、その他の関係部署で、情報システムに関する「学内規約」の改訂・設定を整備したうえで決定していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録 (令和 4 年 7 月 11 日)

教務委員会議事摘録 (令和 5 年 3 月 6 日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①情報通信設備が整備され、自己学習への活用が行われている。

改善のための示唆

①診療参加型臨床実習の実質化のために、学生の電子カルテへのアクセスを確保することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍においても、情報通信技術を最大限に活用し、講義の動画配信や臨床実習の教材配布を積極的に行い、学生の学習に支障を生じないようにした。臨床実習における電子カルテの使用については、学生の権限が閲覧に限定されているため、カルテ記載については、クリニカル・クラークシップ部会が改善活動を行っており、2023 年 4 月から電子カルテに学生(Student Doctor)の権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載できるように計画している。今後は、学生の電子カルテ閲覧・記載を通じて、診療参加型臨床実習の実質化を図るように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録 (令和 4 年 8 月 19 日)

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録 (令和 5 年 1 月 30 日)

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育研究センターが、マンスリーレポートやニュースレターを活用して、積極的に教育情報を発信している。
- ②文学部の教育専門家が教育技法の開発に参画している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①研究室配属 (Research Mind Cultivation Program) では、海外や国内の先端研究機関での実習機会を設けている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①国際交流の強化に向けての担当部門を設置している。

改善のための示唆

①教職員と学生の国内外の交流に対して経済的支援の強化が望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

同窓生からの寄付(大塚量久留米大学医療振興基金)により、医学科第2学年を対象に海外短期語学留学制度の導入が検討された。大学におけるダイバーシティ・インクルージョンの面から、国内外交流の推進を行っている。COVID-19 対策の緩和により、学生の国内留学は研究室配属(RMCP)で第3学年の3名が利用し、短期留学生の受け入れは複数の海外の大学から6名を受け入れた。今後も引き続き、学生と教職員の国内外の交流に対して経済的支援の拡充のための改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

大塚量久留米大学医療振興基金の使途協議(令和4年8月23日)

教務委員会議事摘録(令和4年10月11日)

教務委員会議事摘録(令和5年2月6日)

7. 教育プログラム評価

領域7の改善項目として、「教育課程と学修成果を定期的に監視するプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価結果をカリキュラムに確実に反映する」、「教育評価委員会のカリキュラム評価部門で包括的なプログラム評価体制を充実させる」、「教員や学生からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築する」、「フィードバックの分析結果に基づいたプログラムを開発する」、「学生や卒業生の実績を集積・分析する」、「広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築する」などが指摘された。これを受け、カリキュラムのPDCAサイクルについて、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会のカリキュラム評価部門がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うことを教職員全員に周知しており、評価結果のカリキュラムへの反映、カリキュラム評価部門に

おける包括的なプログラム評価体制の充実、教員と学生の意見を集積するシステムの構築、学生や卒業生の実績の集積と分析、広い範囲の教育関係者のカリキュラムに関する意見を収集するシステムの構築については、引き続き、改善活動が続ける。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムとして、全学生を対象にした学生アンケートを行っており、2022年度は1月24日に第6学年の卒業時アンケート、4月1日に第1学年～第5学年の進級時アンケートを紙媒体で実施し(回答率 696/705=99%)、医学教育研究センターが集計と分析、教育評価委員会が評価とまとめを行い、教務委員会と教授会議で報告し、ニュースレター(学内瓦版 5/20)として講座や部署に配布し、学内の掲示板(電子掲示板を含む)に掲示し周知した。また、各科試験とは別に、学年末に総合試験を実施することで、学修成果を包括的に評価する方策を導入した。今後は、学生アンケートや医学教育ワークショップの成果を活用し、教育プログラムのモニタと評価について、教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターが緊密に連携し、教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果がカリキュラムに反映されるように改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録(令和4年4月11日)

教務委員会議事摘録(令和4年6月6日)

医学教育研究センター マンスリーレポート No. 85(令和4年4月)

医学教育研究センター マンスリーレポート No. 87(令和4年6月)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①教育評価委員会の下部組織であるカリキュラム評価部門での包括的なプログラム評価体制を充実させることが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

包括的なプログラム評価体制として、教育評価委員会の三部門長会議で活動内容を確認し、活動計画を議論しており、2022年度は改善項目の周知と年次報告書の作成を担当するとともに、学生アンケートの継続と卒業生アンケートの実施を決定した。卒業生アンケートについては、同窓会報にQRコードを添付してWebアンケートを行い、多くの回答を期待することになった。今後は、教職員アンケートを計画し、包括的なプログラム体制を構築できるように、改善活動を

続ける。

改善状況を示す根拠資料

教育評価委員会 部門長会議 (令和4年4月5日)
教育評価委員会 部門長会議 (令和4年5月26日)
教育評価委員会 部門長会議 (令和4年7月21日)
教育評価委員会 部門長会議 (令和5年2月16日)

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①教員や学生からのフィードバックを系統的に集積し、分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生アンケートは、第6学年の卒業時アンケートと第1学年～第5学年の進級時アンケートに分けて教務課が実施(用紙を配布して回収)し、医学教育研究センターが集計と分析するシステムとして定着している。2022年度の学生アンケートは回収率99%であり、系統的な情報収集ととなり、3年分のデータが集積した。今後は、学生アンケートを続けるとともに、教育主任アンケートの実施、電子FDの意見収集、教職員アンケートの導入を計画し、教員からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター ニュースレター39号(学内瓦版) (令和4年3月30日)
医学教育研究センター ニュースレター40号(学内瓦版) (令和4年6月8日)
令和4年 卒業時/進級時 学生アンケート結果 (令和4年5月20日)
教務委員会議事摘録 (令和4年6月6日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①フィードバックのデータを分析し、プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムのPDCAとして、カリキュラム委員会が計画や策定(P)、教務委員会が実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会が点検や評価(C)、教務委員会が対処や改善(A)を行う体制が確立し、学生アンケートを収集して分析し、カリキュラム委員会にも報告や提言を行っているが、フィードバックのデータをプログラム開発に活用する段階には至っていない。今後は、教員と学生から得たフィードバックのデータ(例えば、学生アンケートや教職員アンケートの結果)に基づいて教育プログラムの開発を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①2019年に医学部同窓会員に対して卒業生アンケートを実施した。

改善のための助言

- ①学生や卒業生の実績を集積・分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

卒業生アンケートは、2019年度に実施したが(医学部同窓会を通じて無作為抽出法で564名に送付し140名が回答)、2020年度と2021年度は行っておらず、教育評価委員会が2022年度に実行する計画を立て、5月に依頼(郵送/FAXで7月末〆切)、1月に再依頼(QRコード/URL添付で2月末〆切)を行った。今後は、医学教育研究センターが教務課・臨床研修センター・医学部同窓会と連携し、卒業生(とくに研修医や専攻医)の実績を定期的に調査・収集して分析するシステムを構築して実施するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

卒業生アンケート(案内と依頼)(2022年5月)
卒業生アンケートのお願い(再依頼)(2023年1月)
教育評価委員会 部門長会議(令和4年4月5日)
教育評価委員会 部門長会議(令和4年7月21日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①学生選抜・カリキュラム立案・学生カウンセリングに関する学生の実績を分析し、責任ある委員会にフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生カウンセリングに関する実績については、学生支援室が学生相談室の利用状況(相談件数や相談内容)を学生部協議会(全学組織)に報告し、学生委員会や教授会議にフィードバックを提供している。今後は、IRセンターを設立し、入学者選抜やカリキュラム立案に関する学生の実績を収集・分析し、アドミッション検討委員会やカリキュラム委員会にフィードバックを提供するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

学生部協議会議事摘録(令和4年6月9日)

7.4 教育関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①卒業生の実績について、同窓会や臨床研修センターからフィードバックを得ている。

改善のための示唆

- ①教育課程とプログラム評価を確実に実施し、広い範囲の教育関係者が閲覧することが望まれる。
- ②広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

理念やカリキュラムに対する学生と卒業生の声、新任教授を含めた多くの教育関係者のコラムを紙媒体(医学教育ニュース)で学生を含めた各所に配布するとともに、チャット・学内メール・LMS(学習管理システム)などの電子媒体や医学部ホームページでも配信し、広い範囲の教育関係者に公開した。今後は、学内だけでなく、教育関連施設を始めとする地域医療・他職種・患者代表などの広い範囲の教育関係者から教育活動に関する意見を収集するシステムを構築できるように、改善活動を続けるとともに、実質的精読率を上げる工夫を行い、教育課程の幅広い共有を行うことを進める。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録(令和4年7月13日)
教務委員会議事摘録(令和4年7月11日)
広報活動部会議事摘録(令和4年6月17日)
医学教育ニュース66号(令和4年6月28日)
医学教育ニュース67号(令和4年10月28日)
医学教育ニュース68号(令和5年1月27日)
第26回医学教育ワークショップ記録

8. 統轄と管理運営

領域8の改善項目としては、「設置が計画されている『医学IRセンター』に十分な資源を配分する」が指摘された。これを受け、教育活動を高めるための環境整備とコロナ禍の学生の生活支援を行うとともに、IRセンターに十分な資源を配分するように、改善活動を続ける。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①設置が計画されている「医学 IR センター」に十分な資源を配分すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

令和 4 年度予算(予備費)を利用して、IR システムを導入した。今後は、設置が計画されている IR センターに十分な資源を配分するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

令和 4 年度事業計画予算

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①自己点検・評価委員会に外部検証を実施する機関として学外者による外部評価委員会を組織し、教育・研究水準の向上と組織の活性化に資する評価と提言を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

9. 継続的改良

領域9の改善項目として、「教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む」などが指摘された。これを受け、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)を確認しており、教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターは、3年後(2026年度)の受審に向けて、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①独自の能動的学修手法として「協同学習」を導入したことは評価できる。

改善のための助言

- ①教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組むべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)が確立しており、それぞれが業務を遂行しつつ、全体で連携をとりながら確認と修正を継続していく。今後は、IR委員会の枠組みが決定したので、委員会の具体的な構成と役割を明確化するとともに、モデル・コア・カリキュラムの改訂に対応すべく、カリキュラム委員会の機能強化を図る計画であり、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組んでいく。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準(評価を実施されず)

久留米大学医学部医学科 年次報告書

発行日 2023年8月10日

発行者 久留米大学医学部医学科
〒830-0011 久留米市旭町67
TEL 0942-31-7527
FAX 0942-31-4374

印刷 医学部事務部庶務課